

[シラス]

1. 経年経過及び平成 25 年 7～8 月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 24 年は 1,464 トンとなりました。

志布志湾海域では平成 12 年の 1,407 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14 年は 396 トンまで減少しました。その後平成 15 年以降は増加傾向を示し、平成 19 年は 2,374 トンと好調に推移しましたが、その後は減少傾向を示し、平成 24 年は 1,002 トンとなりました。

今期の西薩海域はまとまった漁獲がなく、カタクチシラス主体で 5 トンの水揚げで、前年 3%、平年の 3%でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体で 162 トンの水揚げで、前年の 232%、平年の 106%でした。

2. 平成 25 年 10～12 月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域では、前年、平年並で、志布志湾海域では、前年、平年を下回るでしょう。

(根拠)

西薩海域・志布志湾海域ともに夏期降水量と秋漁との間に正の相関が見られることから、今年の夏期降水量と現況を基に今期の来遊水準を予測しました。

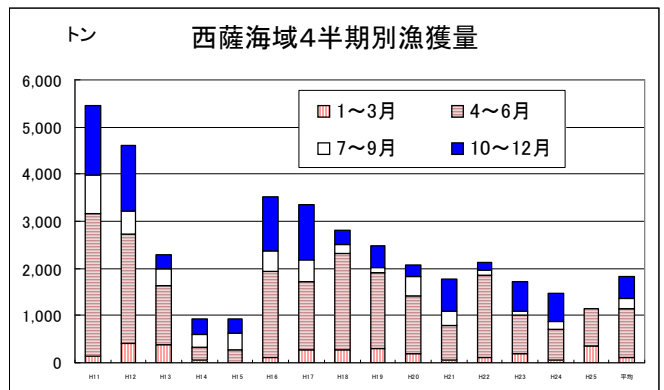
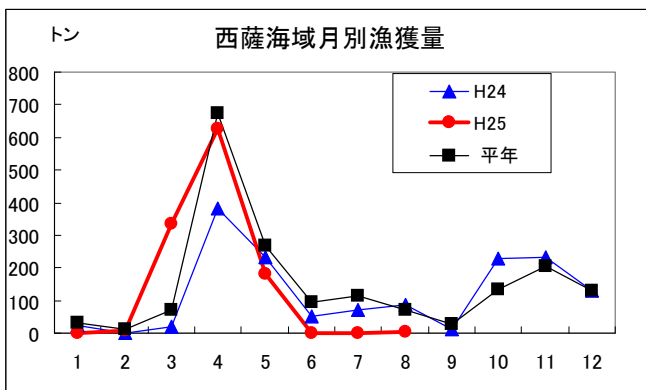


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

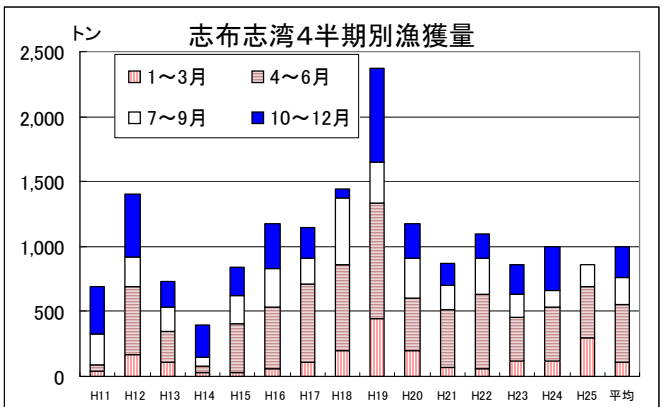
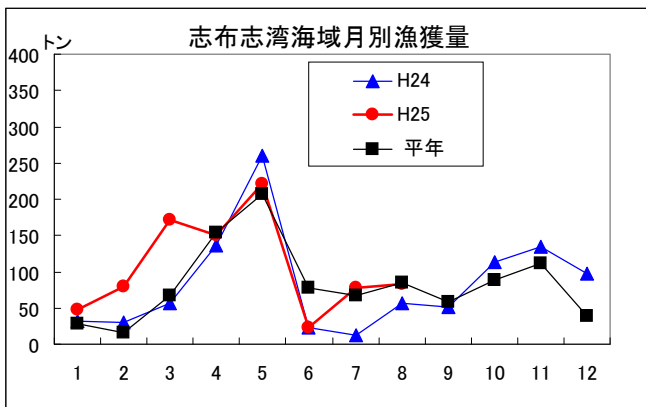


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去 5 年(平成 20～24 年)の平均値(AV)、平成 25 年 8 月末までの漁獲量を使用